



『みんなの地球 一世界を見つめてみよう』

一心開き、力を合わせて生きる児童の育成（人権の満たされた学級・学校づくりに向けて）—
5年総合的な学習の時間

報告者 東京都墨田区立堤小学校 松井 明美先生

1. 研究のねらい

本校は、各学年1クラスの単学級で構成されており、墨田区唯一の外国人児のための日本語通級指導室が設置されている学校である。そして、「人権」をキーワードとして教育活動を進めている。

5年生では、外国籍の子や外国にゆかりのある子は、6人。「中国」「フィリピン」であるが、それぞれの国を大切に思い、皆もそれを受けとめている。

今回、『みんなの地球ー世界を見つめてみよう』という視点で、世界のくらしや文化を調べて知る活動から学習に取り組んだ。そして、世界の状況や世界の子どもたちの現状にも目を向けさせ、『自分たちは今、それほど困らない豊かな生活をしているが、同じこの地球で生きている子どもたちの中には、生きていくことに多くの深刻な現状がある。』ということに気づかせ、その原因を皆でじっくり考え、最後にもう一度今の自分たちの生活をふりかえらせたいと設定した。

2. 実践（活動計画）

①『子ども新聞「世界の国ファイル」』を読んで感想を書こう。	(週1回朝学習)
・各国のくらしや文化を知る。　　・日本のくらしや文化との違いに気づく。	
②フィリピンのくらしを調べよう。　　【探検しよう！みんなの地球サイト】	(2時間)
・インターネットを使って調べる（遊び・スポーツ・学校・買い物・交通・仕事・食・環境問題等）。 ・フィリピンで育った子たちに補足をしてもらい、学習を深める。	
③フィリピン料理を作って、食べよう。　　・今回は、フィリピンのデザートを作る。	(2時間)
④世界の国々のくらしを調べよう。　　【探検しよう！みんなの地球サイト】	(4時間)
・インターネットを使って調べる。（遊び・スポーツ・学校・買い物・交通・仕事・食・環境問題等） ・フィリピン以外の国にも関心をもち調べることから、学習の幅を広げる。	
⑤「世界がもし100人の村だったら」総集編　ー池田賀代子　再話・文ー	(道徳)
・世界をたった100人に縮小された村で「今の自分のくらしは？」「世界の中の自分は？」を見つめる。 ・読み終えたとき、「何を感じたか？」感想を共有し、皆で話し合う。 ・「幸せにくらしている人ばかりではない」ことに気づく。	
⑥同じこの地球上に、身体や心に苦しみを感じながら生きている子どもたちがいることを知り、なぜこのような状況になってしまっているのかを考える。（ユニセフのパネル写真より）	(1時間)
『なぜ、こんな子どもたちがいるのだろうか？』『いったい、何が起きているのだろうか？』 ・生きていくことに深刻な現状がある世界の人々に支援をしている（力を尽くしている）団体・機関（ユニセフ）があることを知り、次時につなげる。	
⑦世界の子どもたちの現状をもっと詳しく知るために、日本ユニセフ協会の方から直接話を聞いたり、質問したりする（ユニセフの方の協力・出前授業）。	(2時間)
⑧今まで学習したこと振り返り、学習のまとめをしよう。	(2時間)

【フィリピン料理を作って、食べよう】



・フィリピン出身の保護者の協力もあり、フィリピンのあったかデザート（ギナタン）を実際に調理し味わうことができた。クラスが一つになって、楽しくフィリピンの食の一部を知ることができた。



【「世界がもし100人の村だったら」総集編を読んで 児童の感想より】

- ・世界には、いろいろな人がいるなあ。みんな同じ生活をしていないのだ。どうして不公平なのだろう。なぜ平等でないのだろう。世界は今どうなっているの？ 私たちに何かできることはないのかなあ？と感じた。
- ・フィリピンでは、外でくらしている人もいます。働いている子どももいます。レストランでは、窓の外から、ぼくたちが食事をしているのを見ている人がいます。ぼくは、かわいそうで、ぼくが残した食べ物やお金をあげたことがあります。食料・水・お金を分けて、幸せや喜びも分けて、みんなが家族みたいに分けあって、仲良くくらせたらしいのになあ。

【ユニセフパネル写真を見て考えよう】 12月17日

学習活動	△資料 ◇教師の支援 ◆評価
<p>○今までの学習をふりかえる</p> <p>【探検しよう！みんなの地球サイト】・環境問題 【世界がもし100人の村だったら】・本の感想</p>	<p>◇今までの学習内容で、心に残っていることを発表させる。</p>
<p>○【パネル写真】を見て、その原因を考える</p> <p>・なぜ、このような子どもたちがいるのだろうか？ ・いったい、何が起きているのだろうか？ 　　戦争　自然災害　経済格差 ・この子たちはどんな思いでくらしているか？</p>	<p>△パネル写真（ユニセフ）10枚を使用。 ◇五感を働かせるよう助言する。 ◆身体や心に苦しみを感じながらも、生きている子どもたちの状況やその原因について考えることができたか。</p>
<p>○【3秒】この数字は何なのか？を考え、思ったことを発表する。</p> <p>・たった3秒の間に、世界ではいったい何が起こっているのか？ ・その死因トップは？　肺炎や下痢</p>	<p>△5歳になる前に命を失ってしまう子が1日に2万8000人、3秒に一人の割合。 1000人生まれても200人以上（日本は4人）命を失う子がいる国もある。</p>
<p>○ユニセフってなに？</p> <p>・生きていくことに深刻な現状がある世界の人々に支援をしている（力を尽くしている）団体</p>	<p>◇次回、実際にユニセフで活動している方に来ていただきて、お話を聞いたり、質問したりできることを伝える。</p>



「ユニセフのパネル写真」を使うことで、「世界の中で、一体何が起きているのだろうか？」ということを視覚的にわかりやすくとらえることができた。写真から状況を感じとり、そして、なぜこのような状況になってしまっているのかを考えることができ、それは、戦争や自然災害、経済格差がもたらした最悪な環境であると知った。

「皆が平等に暮らせるようにできないものか？」「どうしたら皆幸せにくらせるのか？」

「自分たちになにかできることはないのか？」と、子どもたちは深く心に感じ考えはじめた。

【パネルから感じたこと 児童の感想より】

○私の心に残ったのは、『みんなの目』です。子どもが仕事をしている時の目は、『家族をささえよう！家族のことを思えば、これくらい…』と思っているようでした。戦争から逃げてきた人たちの目は、『助けてください。』と言っているような気がしました。でも、心の奥で『今は辛いけど、いつかきっと嬉しいことがある。』と夢や希望をもっていて、それをかなえるために頑張っているんだと思いました。

○働く子どもの目を見ると、悲しい目やこわい目をしていました。「何でこんな目をしているのだろう？」と思いました。

○子どもの兵士の写真を見て、子どもが銃を持っているのにびっくりしました。慣れている顔つきもしていたけど、寂しそうな顔をしているなあと思いました。

○戦争で腕に大けがをした子や、杖を使っている子がいました。「子どもを犠牲にしないで欲しい。かわいそうだ。子どもには、まだ未来があるんだぞ！」と思いました。

○私たちは学校に行けています。朝昼晚のご飯を食べています。水道の蛇口をひねれば、水が出てきます。でも、「学校にも行けない。ご飯も少ししか食べられない。水くみに何時間もかかる。」そんな人たちがたくさんいることを知りました。そのために子どもも必死で働いている。一家をささえ子どもたちもいる。でも、何で子どもなの…！

【世界の子どもたちの現状をもっと詳しく知るために、日本ユニセフ協会の方から直接話を聞こう】 ～ユニセフ協会の方をお迎えして～

「きれいではない水を飲んでいる人々がいる。しかも、水くみに何時間も費やし、その仕事は子どもである。日本では、考えられない！なぜ？」

「家族を支えて、きけんな仕事をして収入を得ている子どもがいる。学校にも行けない。」

「医薬品がたりず、予防接種もうけられず、病に伏し命を落としている子がとても多い。下痢で死んでしまう子がいるなんてしんじられない。」

「子ども戦士として、銃を持たされ、人を殺すことに何の抵抗もない気持ちにさせられている子いる。」

「何で子どもが売買されるの。」など、

今の子どもたちの生活からは考えられないことばかりであったが、これは現実であり、かなり多くの人々が苦しんでいるという話を聞いたことから、多くの感想をもつことができた。

これらの深刻な現状で暮らす世界の人々に支援をしている「ユニセフ」で活動している方からの話や、ビデオ視聴「ユニセフと地球のともだち」は、子どもたちを真剣にさせた。また、実際に使われている「水瓶」に水を入れて運んでみたり、「蚊帳」をつた中に入ったりした活動では、自分たちの今の生活と比べながら学習を進めることができた。



水瓶！重たいよ～。こんな重たい水瓶を持って、1時間も歩くなんて。



○乳幼児の死亡率の多い国
・アフリカに集中している！！

3. 成果と課題

子どもたちの今の生活からは、日々の生活に常に生と死が入り交じっているという現実を、そんな簡単には理解できないとは思う。しかし、これから成長し大人になり社会に出ていく未来ある子どもたちに、この現実を少しでも知ってほしかった。子どもたちも、目をそらしたくなる世界の現状を知り、じっくりと自分なりに考えることができた。将来、「世界が、誰もが、平和で平等に暮らせるように！」と願いたい。